

A-1 教育の質保証を目指した学修成果の可視化 ①

1) 時代的・社会的要請 ⇒ なぜ可視化が必要なのか？

- 国際社会への対応
- 社会が求める人材能力の変化
- 国内大学進学率の増加

2) 取り組み事例

- ★ 3ポリシーの設定
- ★ GPA
- ★ 科目ナンバリング
- ★ 事業ごとのシステム導入
- ★ ポートフォリオの導入

3) 問題点

- ★ 導入したのが学生が活用していない
- ★ それも導入していない
- ★ レポートフォリオの素材となるデータの蓄積をしない
- ★ 導入はしたが情報の蓄積をしない

4) 差・問題点の要因

- ★ 社会に出た際にどのようにポートフォリオを利用できるかわかっていない
- ★ システム構築ができていない
- ★ 社会が求める人材像をグラフィックでできていない

A-1 バッチ付きポートフォリオによる学修成果の可視可(バッチフォリオ)

① バッチフォリオとは？ バッチとは？

② なぜバッチ制度を導入するのか？

- 学生に対してポートフォリオに興味を持たせる
- 学生・海外大学・企業がわかりやすい
- 見えづらい指標見える化

③ 実現するには？

- 科目ナンバリング(カテゴリズ)シラバス改定
- 語学系科目: 英語 I

ディベート 20%	レポート 30%	試験 50%
--------------	-------------	-----------

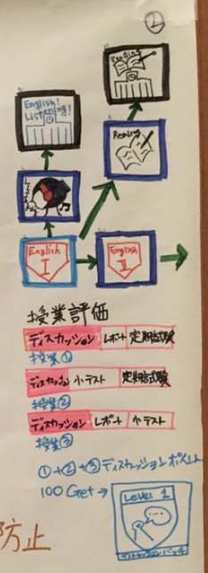
コミュニカ 文書作成スキル



④ 課題

⑤ 効果

- 高校への訴求力がある
- ポートフォリオの有効活用
- 海外留学等の容易性
- 学生の学習意欲の向上
- 就職でのマッチングミスの防止
- 企業に対する学生の質保証
- 逆分析からの社会が求める人材の把握
- 卒業
- 入学希望者の増加
- 国際的競争力の向上



↑ 入学 ↓ 就職